

令和7年度

1級土木施工管理技術検定第二次検定

解 答 試 案

※ご注意※

- ・本解答は令和7年10月10日にCIC日本建設情報センターが独自に制作・編集したもので、予告なく変更する場合がございます。また、CIC日本建設情報センターが独自の見解に基づき制作したもので、試験結果等について保証するものではありません。
- ・解答試案の内容及び正当性に関するお問い合わせは受け付けておりませんので悪しからずご了承ください。
- ・試験実施機関の(一財)全国建設研修センターとは一切関係ございません。



日本建設情報センター

<https://www.cic-ct.co.jp>

不許複製

必須問題**【問題 1】**

※施工経験記述問題のため、解答例は省略します。

【問題 2】

記号	適切な語句又は数値
イ	10
ロ	構造
ハ	組立図
ニ	3.5
ホ	通路

【問題 3】

労働安全衛生規則に定められている、事業者が行わなければならない墜落等による危険の防止に関する措置について、以下の中から2つを選び、解答欄に記述する。

	事業者が行わなければならない措置
①	高さが2m以上の作業床の端や開口部等で、墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所には、囲い、手すり、覆い等を設ける。
②	高さ又は深さが1.5mをこえる箇所で作業を行うときは、当該作業に従事する労働者が安全に昇降するための設備等を設ける。
③	作業のため物体が落下することにより労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、防網の設備を設け、立入区域を設定する等当該危険を防止するための措置を講じる。
④	架設通路で墜落の危険のある箇所には、高さ85cm以上の手すり等と、高さが35cm以上50cm以下の棧等の設備を設ける。

上記以外にも正答となり得る解答はあるが、本試案では代表例を提示する。

※問題 4～問題 11 までは選択問題(1)，(2)です。

問題 4～問題 7 までの選択問題(1)の 4 問題のうちから 2 問題、問題 8～問題 11 までの選択問題(2)の 4 問題のうちから 2 問題を選択し解答してください。

選択問題（１）

【問題 ４】

記号	適切な語句
イ	横断
ロ	浸透
ハ	側方
ニ	腹付け
ホ	動態観測

選択問題（１）

【問題 ５】

記号	適切な語句
イ	BIM/CIM（三次元データ）
ロ	熱
ハ	かぶり
ニ	防錆
ホ	超音波

選択問題（１）

【問題 6】

記号	適切な語句
イ	台帳
ロ	試掘
ハ	表示板
ニ	立会
ホ	防護

選択問題（１）

【問題 7】

記号	適切な語句
イ	調査
ロ	協議
ハ	制約
ニ	第三者
ホ	指揮命令

問題 8～問題 11 までの選択問題(2)の 4 問題のうちから 2 問題を選択し解答してください。

選択問題（２）

【問題 8】

コンクリートの打継目に関する次の 2 項目について、施工上の留意点をそれぞれ 1 つずつ解答欄に記述する。

	項目	施工上の留意点
①	打継目の位置を決める際の留意点	・打継目は、できるだけせん断力の小さい位置に設け、打継面を部材の圧縮力の作用方向と直交させるのを原則とする。 ・継目の位置は、温度応力、乾燥収縮等によって発生するおそれのあるひび割れを考慮して定める。
②	水平打継目の処理の留意点	・既に打ち込まれたコンクリートの表面のレイタンス、品質の悪いコンクリート、緩んだ骨材粒等を完全に取り除く。 ・コンクリート表面を粗にした後、十分に吸水させる。

上記以外にも正答となり得る解答はあるが、本試案では代表例を提示する。

選択問題（２）

【問題 ９】

情報化施工における TS（トータルステーション）・GNSS（全球測位衛星システム）を用いた盛土の締固め管理において、施工における実施事項を、下記の①～④から２つ選び、番号とその実施事項を解答欄に記述する。

	選択肢	留意点又は実施方法
①	試験施工	・締固め回数が多いと過転圧が懸念される土質の場合、過転圧が発生する締固め回数を把握して、本施工での締固め回数の上限値を決定する。 ・使用予定材料の種類毎に事前に試験施工を行い、施工仕様（まき出し厚、締固め回数等）を決定する。
②	盛土の材料の品質	・盛土に使用した材料が、事前に土質試験で品質を確認し、試験施工で施工仕様を決定した材料と同じ土質の材料であることを確認できる記録として、搬出した土取場を記録する。 ・土取場に複数の土質の材料がある場合には、それらを区別するための土質名を記録する。 ・盛土に使用した材料の含水比(施工含水比)を記録する。
③	材料のまき出し	・試験施工で決定したまき出し厚以下のまき出し厚となるように作業を実施する。 ・200mに１回の頻度でまき出し厚の写真撮影を行うとともに、毎回の盛土施工における施工機械の走行標高データをログファイルに記録する。
④	締固め	・毎回の締固め終了後に、車載パソコンに記録された計測データを電子媒体に保存し、管理局において締固め回数分布図と走行軌跡図を出力する。 ・締固め回数分布図と走行軌跡図は、全数・全層について作成する。

上記以外にも正答となり得る解答はあるが、本試案では代表例を提示する。

選択問題（２）

【問題 10】

建設現場における、車両系機械による掘削又は積込み作業中の労働災害とその防止対策について、労働安全衛生規則に定められている、事業者が実施すべき事項を５つ、解答欄に記述する。

	事業者が実施すべき事項
①	車両系建設機械の運転者が運転位置から離れるときは、運転者に、バケット、ジッパー等の作業装置を地上に下ろさせる。
②	運転中の車両系建設機械に接触することにより労働者に危険が生じるおそれのある箇所に、労働者を立ち入らせない。
③	当該車両系建設機械の転倒又は転落により労働者に危険が生ずるおそれのあるときは、誘導者を配置し、その者に当該車両系建設機械を誘導させる。
④	岩石の落下等により労働者に危険が生ずるおそれのある場所で、ブルドーザ、トラクターショベル、パワーショベル等を使用するときは、当該車両系建設機械に堅固なヘッドガードを備える。
⑤	当該車両系建設機械の運行経路について、路肩の崩壊を防止すること、地盤の不同沈下を防止すること、必要な幅員を確保すること等必要な措置を講じる。
⑥	車両系建設機械の転落、地山の崩壊等による労働者の危険を防止するため、あらかじめ、当該作業に係る場所について地形、地質の状態等を調査し、その結果を記録しておく。
⑦	車両系建設機械の転倒やブーム又はアーム等の破壊による労働者の危険を防止するため、その構造上定められた安定度、最大使用荷重等を守る。

上記以外にも正答となり得る解答はあるが、本試案では代表例を提示する。

選択問題（２）**【問題 11】**

プレキャストL型擁壁の施工手順

以下の中から２つを選び、解答欄に記述する。

	工種名	施工上の留意事項
①	床掘工（掘削工）	・仕上がり面は地山を乱さないように、かつ不陸を生じさせない。 ・設計条件と異なる脆弱な地盤が出た場合は良質土に置き換える。
②	据付工（設置工）	・基盤の低い方より高い方へ向かって敷設する。 ・継目部は付着、水密性を保つように敷設する。 ・段差が生じないように敷設する。
③	埋戻し工（裏込め工）	・良質土を使用し、入念に締固める。 ・薄層で両側から均等に締固める。

上記以外にも正答となり得る解答はあるが、本試案では代表例を提示する。